

令和4年度 授業改善推進プラン

1 本校における課題

国語	外国籍の生徒が多く、各領域において、区や全国の平均を下回っている。 どの領域においても、まずは基礎的な力を定着させられるよう、漢字(テストや課題を含む)や音読などを行う中で繰り返し指導していく。そして、その中で身に付けた知識を、自分の意見を述べることにつなげていく。あらゆる形で自らの意見や考えを言葉にする機会を設け、表現させる。それらを十分に行うために、授業時間だけでなく、家庭学習の定着させる必要もあると考える。
社会	海外からの転入生徒が多く、日本人であっても小学校段階の知識が全く習得されていない生徒も多い。また、そのような生徒の進路選択に際して受験教科の範囲外になることもあって、学習意欲が欠ける面も見受けられる。試験問題にフリガナを要する生徒の多くは、フリガナ付きの問題用紙を用意しても問題文の意味が読解できないため、白紙に近い答案用紙も目立つ。 いかに主体的に学習に取り組ませるかが課題である。
数学	授業の様子や定期考査の答案を見ても、基礎的・基本的な知識・技能の定着が二極化している様子がうかがえる。その原因としては、海外からの生徒が一定数おり日本語の理解力が乏しいのと、学習意欲が欠けている生徒がいることであると考え。各学年とも、基礎を活用した問題の正答率が低く、授業では、基礎・基本の定着を図ると同時に、基礎を活用した問題に取り組ませる必要がある。
理科	全国学力調査の結果では、全国や東京都の平均正答率を大きく下回っている。 領域別に見ると、一般的に得意な生徒が多い生命分野でも得点率が低く、観点別に見ると知識・技能よりも思考・判断・表現に課題があることが分かった。 また、記述式の問題に対する対応力の弱さも浮き彫りとなった。
外国語	入学時に外国語学習は初歩の段階である生徒が大多数であり、この段階の生徒たちには、基礎・基本の定着を主眼に置き、学力を伸ばしていく必要がある。 一方で、英語を母語とする生徒や帰国生徒が約2割在籍しており、様々な習熟度の生徒が混在している状況である。 学習意欲を引き出し、学び合いにより深い学びを促進させることが課題である。